

# 送還忌避によって生じている問題について

## 退去を拒む自国民の受取を拒否する国の存在

### 【事例1】

※ イランは平成28年1月を最後に、我が国からの送還忌避者の送還を受け入れていない

- ① 不法残留中の「[覚醒剤取締法違反、関税法違反](#)」により、[懲役12年、罰金500万円の実刑判決](#)
- ② 上記①[受刑中](#)に[難民認定申請](#)
- ③ 上記①[刑務所出所後](#)、入管施設に収容、[現在仮放免中](#)（現在、難民認定申請1回目審査中）

※ 送還を忌避するイラン人（323人）のうち、薬物関係法令違反の有罪判決を受けた者は175人（懲役1年を超える者は160人）

### 【事例2】

- ① 正規残留中の「[大麻取締法違反、覚醒剤取締法違反、麻薬及び向精神薬取締法違反等](#)」により、[懲役8年、罰金400万円の実刑判決](#)
- ② 上記①[刑務所出所後](#)、入管施設に収容中に[難民認定申請](#)し、その後、[仮放免許可](#)
- ③ 上記②[仮放免許可後](#)、「[覚醒剤取締法違反、大麻取締法違反、麻薬及び向精神薬取締法違反等](#)」により、[懲役5年6月、罰金100万円の実刑判決、現在受刑中](#)

## 送還忌避者に退去を義務付ける法律がない ⇒ 送還妨害行為の発生

平成28年以降、送還を中止せざるを得ないほどの送還妨害行為が11件（10人）発生しており、うち8人が前科又は前歴を有している

例	地域	理由	前科
1	中南米	機内で大声を上げ激しく抵抗。機長判断により、搭乗拒否されたもの	①強姦、恐喝、強姦未遂、恐喝未遂 懲役6年 ②公務執行妨害 懲役10月
2	アフリカ	機内で大声を上げ激しく抵抗。機長判断により、搭乗拒否されたもの	大麻取締法違反、関税法違反 懲役6年 罰金200万円

## 仮放免者の逃亡事案が多発

### 【事例1】

- ① 不法入国後の「[覚醒剤取締法違反、大麻取締法違反、麻薬及び向精神薬取締法違反等](#)」により、[懲役4年、罰金40万円の実刑判決](#)
- ② 上記①[刑務所出所後](#)、入管施設に収容中に[難民認定申請](#)し、その後、[仮放免許可](#)
- ③ 上記②[仮放免許可後](#)、「[覚醒剤取締法違反](#)」により、[懲役4年、罰金20万円の実刑判決](#)
- ④ 上記③[刑務所出所後](#)、入管施設に収容、その後、[再び仮放免許可されたが、逃亡し、現在手配中](#)

### 【事例2】

- ① 正規在留中の「[強盗傷人、窃盗、薬物及び劇物取締法違反等](#)」により、[懲役7年6月の実刑判決](#)
- ② 上記①[刑務所出所後](#)、入管施設に収容中に[難民認定申請](#)し、その後、[仮放免許可](#)
- ③ 上記②[仮放免許可後](#)、「[窃盗](#)」により、[懲役2年2月の実刑判決](#)
- ④ 上記③[刑務所出所後](#)、入管施設に収容、その後、[再び仮放免許可されたが、逃亡し、現在手配中](#)（現在、難民認定申請1回目審査中）

### 【事例3】

- ① 正規在留中の「[傷害致死](#)」により、[懲役7年の実刑判決](#)
- ② 上記①[刑務所出所後](#)、入管施設に収容、その後、[仮放免許可されたが、逃亡し、現在手配中](#)（注）拒食し、治療を拒否していたもの